

3月20日 マルコによる福音書8章27～33節 今日の説教から
説教題：「受難の予告」

今日の聖書箇所ではイエス様を正しく理解するペテロと、イエス様をいさめるペテロが並べて記されています。人々がイエス様について「洗礼者ヨハネだ」「再臨のエリヤだ」と理解する中で、ペテロは「あなたはメシアです」と、イエス様が救い主としてこの世に与えられたことを正しく理解していました。それにもかかわらずペテロは、31節以降でイエス様が受難の後十字架にかかると殺されると聞き、「そんなことはあってはならない」とイエス様のことをいさめています。イエス様がメシアだと理解していたからこそ、軍事的な指導者として、終末から信仰者を救い出す救い主として、いわば「王」としての役割を期待されていたイエス様の「これから私は殺される」と言う発言に、ペテロは耐えられなくなつたのです。

いま、私たちは、「イエス様をメシアであると告白するペテロ」になれているでしょうか。心の底からイエス様が私たちの事を救ってくれると確信し、イエス様に全力でもたれかかるような、全幅の信頼をイエス様の言葉に置くことが出来ているでしょうか。「もしかしたらこんなことはイエス様にはできないかもしれない」「神様だからと言って何でもできるわけではないかもしれない」「何でも神様に頼ってはいけない」と、どこか神様のことを遠く感じてしまつてはいないでしょうか。私たちのことを救ってくれる方として、私たちに向けて語り掛けてくれている方として、イエス様の言葉を自分の事として受け止めることが出来ているでしょうか。

そして、私たちは「イエス様をいさめるペテロ」になってしまっていないでしょうか。神様が人間に殺されるという驚くべき事実を目の前に、「そんなことはあってはならない」と思つてしまつたペテロのように、イエス様の言葉を私たちの都合を前提に受け止めてしまつていかないでしょうか。自分の思いによって神様を動かすような、偶像崇拜のような罪に従うのではなく、神様の御心にそつて私たちが動くような神様中心の生活が出来ているでしょうか。

イエス様の受難と十字架は、そして死と復活は、イエス様の言葉をそのすぐそばで聞いていた弟子たちにとつてもすぐに受け入れることが出来ないほどに驚くべき出来事でした。神様の御心は、私たち人間が理解しきれないほどに驚くべき方法で私たちの事を救いへと導きます。私たちはそれを難しく考えるのではなく、「神様は私たちのために全てをそなえてくれているんだ」「神様は私たちの事をそれほどまでに愛してくれているんだ」と素直に受け止めて、その愛に対する応答としての愛を神様に示すことが出来ればいいのです。今日の讃美歌「主に従うことは」のように、イエス様の後を歌いながら歩むような、そんな素朴な信仰が私たちの歩むべき信仰の形なのだと思います。

私たちは、どのようなことが起きていたとしても、神様に愛されて、神様を愛するその事実は変わりません。その喜びを胸に、今週一週間の歩みを、これから歩みを共に進めていきましょう。

今日の説教箇所：マルコによる福音書 8章27～33節

- 27:イエスは、弟子たちとフィリポ・カイサリア地方の方々の村にお出かけになった。その途中、弟子たちに、「人々は、わたしのことを何者だと言っているか」と言われた。弟子たちは言った。「『洗礼者ヨハネだ』と言っています。ほかに、『エリヤだ』と言う人も、『預言者の一人だ』と言う人もいます。」そこでイエスがお尋ねになった。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」ペトロが答えた。「あなたは、メシアです。」するとイエスは、御自分ことをだれにも話さないようにと弟子たちを戒められた。
- 31:それからイエスは、人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日の後に復活することになっている、と弟子たちに教え始められた。しかも、そのことをはっきりとお話しになった。すると、ペトロはイエスをわきへお連れして、いさめ始めた。イエスは振り返って、弟子たちを見ながら、ペトロを叱って言われた。「サタン、引き下がれ。あなたは神のことを思わず、人間のことを思っている。」

マラキ書 3章22～24節

- 22:わが僕モーセの教えを思い起こせ。わたしは彼に、全イスラエルのため ホレブで掟と定めを命じておいた。見よ、わたしは 大いなる恐るべき主の日が来る前に 預言者エリヤをあなたたちに遣わす。彼は父の心を子に 子の心を父に向けさせる。わたしが来て、破滅をもって この地を擊つことがないように」。